

<p>1. これまでの災害で、高齢者世帯等の方が困っている点、気づいた点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市外の話ですが、熱海の土砂災害の時に災害処方箋の対応が必要になることがあったそうです。 ・家の中に泥水が入ってしまいどうしたらよいかわからない。災害手続きの方法がわからない。ボランティアをお願いしたくても、どこに連絡を取ったらよいかわからない。 ・今まで特に災害に遭うことなく過ごしてきました。 ・昨年9月災害時、島田市社協では、9月26日から10月7日までの間、独自で「災害ボランティアセンター」を立ち上げ、川根や初倉、金谷地区を中心に泥だしや片づけ、家具の移動等の支援を行った。ニーズ対応件数・延べ57件、ボランティア活動者数・延べ362人であった。また、その後も「福祉のまちづくりセンター事業」として活動件数・延べ14件、延べ120人のボランティア協力を得て、継続支援を行った。 ・災害ボランティアセンターの支援を通じて、気づいたことは、「土砂の撤去や家財搬出」に多くの方が困っていたことである。特に、日ごろから地域の人とのつながりが薄い人(高齢者等)は、情報もなく、孤立状態であった。そのため、ボランティアが訪問・支援することで「一人では何もできなかった。」「助かった」という声を多くいただいた。 ・その他、被災された方のお宅を訪問する中で、罹災証明書の申請から家屋の修繕までに流れを周知する必要があると感じた。(証明の際の窓口、被害を受けた家屋・家財等の具体的な写真撮影等) ・増水で2階に避難するよう指示されたが、階段昇降が出来ず困った。行ったとしてもトイレがない 等。
<p>2. 市に求めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市として災害処方箋は用意されているのでしょうか。 ・広報で放送しても聞き取れないので誰でも簡単に判断できるような装置又は方法を考えてほしい。(各地域にあった方法で) ・消防・自主防・市役所・民生委員等の連絡網を作ってほしい。・廊下に泥水が入ってしまった場合の消毒材料等は各支所に常備しておいてほしい。前は石灰をもらい撒いたが、石灰は消毒にはならないので。 ・市、地域自治体、包括、ケアマネ、病院、訪問看護他、横の連携体制を整えていく必要があると思います。 ・停電時の電池、明かりの確保、断水時の水の確保、トイレの確保 ・住民に対する「罹災証明」のわかりやすい説明。 ・島田市社協で災害ボランティアセンターを運営していることの周知(公式Line等の活用) ・日頃から高齢者支援にあたる各地域包括支援センターや民生委員・児童委員との連携(社協職員との同行訪問等)できるとよりスムーズな支援を行うことができると思う。 ・近隣の協力体制や状況周知があればと思います。
<p>3. 有事の際、独居高齢者等に対しどのような支援が必要と考えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬局に来ることが難しいケースでは避難先に薬を届ける必要が出てくる可能性があります。 ・近所の人たちの手を借りて早目の避難等行動を起こす。 ・食事、薬品の供給。 ・地域の力が必要。 ・独居高齢者の方が避難所等に行くのは、なかなか大変、できることなら自宅で過ごせるように支援を考えたい。 ・相談窓口の周知。 ・困っていること、助けてほしいことを言える仕組みづくり。(地域包括支援センター、ケアマネジャー、介護支援事業所、企業等との連携) ・災害の種類によって違うが、水害の場合は、素早い情報提供を行い、必要な処置が必要。 ・ライフラインが止まる等して支援物資が来てくれても、取りに行けない方もいるため、協力支援が必要に思います。
<p>4. 災害時にどのようなことができると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の供給(場合によってはお届け) ・避難所で自分ができる手伝いをする。担当高齢者の安否確認。 ・安否確認ができる手段(電話が通じる、訪問ができる)があれば、担当利用者様の状態・状況確認ができると思います。 ・近所や隣組等、回りの人とのつながり、声掛け等で助け合いをしなければと思います。 ・島田市社協では、災害対策本部からの要請を受け「災害ボランティアセンター」を立ち上げることになっている。日頃から地域の様々な方・団体とのつながりがある社協だからこそできる取り組みだと感じている。昨年9月同様ボランティア派遣はもちろんのこと、生活への支援が必要な方に対する支援等も行っていきたい。 ・ただ、災害ボランティアセンターがどこに設置されるのか、どのような機能があるのかなど知らない人が多いことが課題である。そのため、出前講座や研修会等を通じて周知をしているが、島田市社協だけでは限界がある。島田市、関係機関の協力を得て、周知や仕組みづくり等を行っていきたい。 ・(支援物資が来てくれた場合、)支援物資を代わりに取りに行き届ける等の支援ができる。スマホで情報を閲覧できない方へ情報の伝達をする。